

用語集

セメント事業

キルン(セメントロータリー)	セメント製造に使用される回転式の窯。原料を連続的に投入し、重油や石炭等の化石エネルギーに加え、それらの代替となる多様な廃棄物や副産物を熱エネルギーとして使用し、原料を高温(最高1,450℃)で焼成することによりクリンカを生成する。キルンは、効率的なセメント生産を支える重要設備であり、セメントの品質や生産量に直接影響を与える。当社グループでは栃木工場・岐阜工場・赤穂工場・高知工場・八戸セメント㈱の5工場で合計8本のキルンが稼働中。
クリンカ(Clinker)	主原料である石灰石、粘土、珪石、酸化鉄やそれらの代替となる廃棄物や副産物を、最高1,450℃に達するキルンで高温焼成後に冷却されることにより生成される焼塊。セメントの中間製品で、セメントの強度や品質を決定する重要な要素。生成されたクリンカは、セメントの硬化速度を調整する役割を果たす石膏や、石灰石をはじめとする少量混成分を混合粉砕することで、セメントが完成する。
プロセス起源CO ₂	セメント製造において発生する二酸化炭素(CO ₂)のうち、主に主原料である石灰石(CaCO ₃)がキルンで高温焼成される際に酸化カルシウム(CaO)と二酸化炭素(CO ₂)に分解される脱炭酸反応によって発生するCO ₂ 。セメント製造におけるCO ₂ 排出量の約60%を占めており、残りの約40%は、石炭などの化石エネルギーの使用によって発生するエネルギー起源CO ₂ 。セメント業界では、CO ₂ 排出量削減のために、CO ₂ 回収・利用技術や、セメント中のクリンカ比率の低減、代替材料の使用等の取り組みが進められている。
CO ₂ 再資源化人工石灰石	廃石膏ボードや、一般焼却灰などの廃棄物中に含まれるカルシウム(Ca)と二酸化炭素(CO ₂)を結合させる「CaとCO ₂ のデュアル・リサイクル技術」により、人工的に生成される炭酸カルシウム(CaCO ₃)。NEDO(国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)の「グリーンイノベーション(GI)基金事業」による成果物であり、CO ₂ を鉱物として永久に固定化することが可能。廃棄物とCO ₂ の再資源化により、CO ₂ 排出量削減だけでなく、最終処分場の延命化による循環型社会の構築に貢献する。当社グループでは、栃木工場内にCO ₂ 再資源化人工石灰石の製造試験設備を構築し、安定生産に向けた試験を進めるとともに、セメント原料や、さまざまな産業における充填材利用のための研究開発を推進中。
カーボンリサイクルセメント(CRC)	セメント工場由来の排ガス中の二酸化炭素(CO ₂)と廃棄物由来のカルシウム成分から生成したCO ₂ 再資源化人工石灰石を原料に使用して製造されたセメント。当社グループにおいて製造方法・用途等の研究開発を進めている。天然石灰石の使用量を減らし、その代替としてCO ₂ 再資源化人工石灰石を使用することで、製造工程において新たに発生する天然石灰石由来のCO ₂ の排出抑制と廃棄物の資源循環にも貢献する。
CO ₂ の鉱物固定化(鉱物化)	二酸化炭素(CO ₂)を化学的に安定な炭酸塩鉱物として固定化する技術。CO ₂ をアルカリ土類金属(カルシウムやマグネシウムなど)と反応させることでCO ₂ を半永久的に鉱物中に固定化でき、長期にわたって安全にCO ₂ を貯留する方法として期待されている。
CCU(Carbon Capture and Utilization)	二酸化炭素(CO ₂)を大気中に排出せずに回収し、有効利用する技術。主にエネルギー産業や重工業などの大規模排出源からCO ₂ を回収し、それを化学品や燃料の製造、油田の油層への圧入による原油回収などの用途に利用される。CCU技術は、CO ₂ の排出量削減に寄与し、循環型経済の構築に貢献する技術として注目されている。
CCS(Carbon Capture and Storage)	二酸化炭素(CO ₂)を大気中に放出せずに回収し、地中に貯留する技術。主に、エネルギー産業や重工業などの大規模な排出源からCO ₂ を回収し、圧縮して帯水層や枯渇油・ガス田などの地層に注入することにより、温室効果ガスの排出を削減する。CCS技術は、特にエネルギー産業や重工業において重要視されており、各国で実証プロジェクトが進行中。

CCUS(Carbon Capture, Utilization and Storage)	CCU(Carbon Capture and Utilization)技術によるCO ₂ の有効利用とCCS(Carbon Capture and Storage)技術によるCO ₂ の地中貯留の総称。
ブルーカーボン	沿岸や海洋生態系が光合成により大気中の二酸化炭素(CO ₂)を取り込み、その後、海底や深海に蓄積される炭素のこと。「グリーンカーボン」は陸上の植物が光合成によって大気中のCO ₂ を吸収し、有機炭素化合物として貯留するのに対し、ブルーカーボンの主要な吸収源には、藻場、塩性湿地、干潟、マングローブ林などがある。これらの生態系の保全と拡大は、地球温暖化対策として重要視されており、国際的な取り組みが進められているが、CO ₂ を吸収するだけでなく、水質浄化や生物多様性の保全など、多面的な価値を持っている。

高機能品事業

LN変調器	光通信用品部のLN(リチウムナイオベート)変調器は、世界中に張り巡らせた光通信システム(光ファイバーケーブルを使ってデータを伝送するシステム)において、電気信号を光信号に変換(変調)する役割を担い、光通信システムの心臓とも言える最重要部品の一つ。当社の変調器は1T(テラ)以上の高速大容量化に対応し、優れた高速性能と省電力特性を有する。
静電チャック(ESC)	静電チャック(ESC=Electrostatic Chuck)は、半導体製造装置に搭載され、電気的な力で対象物を吸着し、固定する役割を果たす部品。静電気で保持するため、傷やダメージが少なく、真空中でも均一な力で吸着できるのが特徴。当社が製造・販売する静電チャックは自社で製造した炭化ケイ素(SiC)と、アルミナを複合化して使用しているため、アルミナ製の静電チャックに比べて耐電圧や吸着力等において高い性能を有する。

日本固有の用語

GX-ETS(Green Transformation-Emissions Trading System)	GX推進法に基づき2026年度から導入された日本の排出量取引制度。政府が企業に割り当てた排出枠に基づき、排出実績量と排出枠の過不足分を企業間で取引する仕組みである。カーボンプライシングの一環として、企業の脱炭素投資や温室効果ガス排出量の削減を促進することを目的としている。
NEDO(国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)	日本のエネルギー・環境分野および産業技術の研究開発を支援する国立研究開発法人。持続可能な社会の実現に向けて、革新的な技術の創出と社会実装を促進することを目的としている。主な活動には、委託研究や補助金の提供を通じた技術開発支援、実証試験の推進、産学官連携の促進などが含まれる。特に、新エネルギー、省エネルギー、カーボンニュートラルなどの分野において、将来の産業競争力の基盤となる技術の開発を支援している。
グリーンイノベーション基金(GI基金)	経済産業省が2050年までのカーボンニュートラル達成を目指して設立した総額2兆7,564億円の基金(2024年11月現在)。NEDO(国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)が運営し、最長10年間にわたり、企業や研究機関の新規技術の研究開発、実証、社会実装を長期的に支援。再生可能エネルギー、次世代型太陽電池、大規模水素サプライチェーンの構築など、カーボンニュートラルに貢献する技術開発プロジェクト等が支援対象で、当社は2022年に本基金の事業「CO ₂ を用いたコンクリート等製造技術開発」プロジェクトの「CO ₂ 回収型セメント製造プロセスの開発」において、「多様なカルシウム源を用いた炭酸塩化技術の確立」を提案しテーマとして採択された。「CO ₂ 再資源化人工石灰石」は本基金事業の研究開発成果の一つ。

関連情報・二次元コードのご案内

▶ 企業Webサイト	公式ウェブサイト https://www.soc.co.jp/	
▶ 公式SNS	YouTubeチャンネル https://www.youtube.com/channel/UCQ_TelvtYC0-acOMc2CrMBg	
	Xアカウント https://x.com/SOCement_PR	
▶ IR・サステナビリティ 関連資料	IR資料室 https://www.soc.co.jp/ir/document/	
	2026-28年度 中期経営計画 https://www.soc.co.jp/sys/wp-content/themes/soc/assets/pdf/ir/document/document03/analyst/chukikeiei_2605.pdf	
	2025年第163期(2026年3月期)有価証券報告書 https://www.soc.co.jp/sys/wp-content/themes/soc/assets/pdf/ir/document/document02/163/163yuukasyouken.pdf	
	各種IR・サステナビリティ説明会における説明・質疑応答(ログミーFinance) https://finance.logmi.jp/companies/2502	
	2050年カーボンニュートラル・ビジョン “SOCN2050” Version2.0 https://www.soc.co.jp/sys/wp-content/uploads/2026/05/07d972dd605e4bba77a7eeb1b6460e8c.pdf	
	温室効果ガス排出量 第三者検証報告書 https://www.soc.co.jp/sys/wp-content/themes/soc/assets/pdf/csr/csr08/environment02/ghg-verification-report_2025.pdf	
▶ データ集	財務・業績情報データブック https://www.soc.co.jp/sys/wp-content/themes/soc/assets/pdf/ir/results/financial-databook.xlsx	
	非財務情報データブック https://www.soc.co.jp/sys/wp-content/themes/soc/assets/pdf/csr/non-financial-databook.xlsx	

■ 企業価値向上につながる広報活動

各メディアや広告を活用し、事業活動を通じた当社の社会的役割についても広く発信していきます。

YouTubeにて
工場紹介動画公開中



<https://www.youtube.com/watch?v=wOcgM0HZVs4>



環境リサイクル特設サイト
さすてなセメント



<https://www.soc.co.jp/kankyo/>



生物多様性への取り組み
海洋製品事業紹介



<https://www.soc-tec.com/fish/>

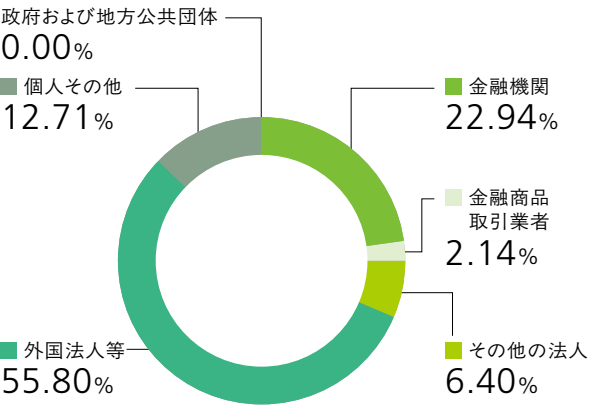


会社概要／株式の状況 (2026年3月31日現在)

会社概要

会社名	住友大阪セメント株式会社
設立	1907年11月29日
本社	〒105-8641 東京都港区東新橋1-9-2 汐留住友ビル 20階
電話	03-6370-2700
従業員数	単体 1,364名 連結 3,045名
資本金	41,654百万円
証券コード	5232
上場証券取引所	東京証券取引所
発行可能株式総数	130,000,000株
発行済株式総数	32,068,117株 (うち自己株式308,844株)

所有者別持株比率



大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,395	13.84
NORTHERN TRUST CO.(AVFC)RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST(常任代理人 香港上海銀行東京支店 セキュリティーズ・サービス・オペレーションズ)	2,649	8.34
NORTHERN TRUST CO.(AVFC)RE U. S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS (常任代理人 香港上海銀行東京支店 セキュリティーズ・サービス・オペレーションズ)	1,493	4.70
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,296	4.08
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	1,272	4.01
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	1,103	3.47
NORTHERN TRUST CO.(AVFC)RE NON TREATY CLIENTS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支店 セキュリティーズ・サービス・オペレーションズ)	1,085	3.42
NORTHERN TRUST CO.(AVFC)RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT(常任代理人 香港上海銀行東京支店 セキュリティーズ・サービス・オペレーションズ)	905	2.85
住友生命保険相互会社(常任代理人 株式会社日本カストディ銀行)	852	2.68
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	744	2.35

※ 持株比率は、発行済株式総数から自己株式数(308,844株)を除いた数に基づき、算出しています。なお、自己株式数には、役員向け株式報酬制度に係る信託が所有する当社株式36,100株および従業員向け株式報酬制度に係る信託が所有する当社株式31,908株は含まれておりません。